

「One Mission - One Team - One Goal」

平成 22 年 12 月 12 日
UNDOF 司令部 前任 兵站幕僚
3 等 陸 佐 岡 田 豊

1 はじめに

私は、UNDOF（国連兵力引き離し監視隊）司令部 前任 兵站幕僚（15 次要員）として、ゴラン高原の平和と安定に寄与できる幸運な機会に恵まれ、平成 22 年 2 月より約 1 年間の予定で、ゴラン高原において国際平和協力業務に就いています。日本の UNDOF 派遣が始まってから約 15 年が経ちましたが、日本から派遣された諸先輩方から引き継いだ伝統及び獲得してきた信頼に加え、日本からの手厚い御支援を頂いているお陰もあり、自分に与えられた任務を整齊且つ着実に遂行することができています。以下、私が所属している UNDOF 司令部における勤務の一端をご紹介します。



ゴラン高原（後方に見えるのがヘルモン山：標高 2814 m）

2 私の上司はフィリピン人 UNDOF 司令官の統率

シリア及びイスラエルの停戦監視のためにゴラン高原に展開する UNDOF は、オーストリア、クロアチア、フィリピン、インド、カナダ及び日本の 6 カ国からなる軍人（約 1,050 名）と、国連職員及び現地職員からなる文民（約 150 名）の約 1,200 名からなる小規模な伝統型 PKO ミッションの一つです。（ゴラン高原と隣接するレバノン南部に展開している UNIFIL（国連レバノン暫定隊）は約 13,000 名規模）



UNDOF 車両（装甲車）によるパトロール（左：RG-32M、右：SISU）

現在のUNDOF 司令官（エカルマ少将）は平成22年3月に着任され、PKOへの参加は初めてではありますが、フィリピン海兵隊において対テロ作戦の司令官をされたこともある実戦経験豊富なフィリピン軍人です。



エカルマ司令官からは、日本隊隊員が真摯に国際平和協力業務に取り組み、質の高い成果を上げていることや、UNDOF勢力の5%にも満たない少ない勢力（約40名）でありながら、各種訓練や行事等でその存在感を示していることもあり、日本隊に対して格別に高い評価と信頼を頂いています。また、UNDOF 司令官として“**One Mission - One Team - One Goal**”という統率方針を掲げられており、着任当初から文民及び各国軍人が一体となり、UNDOF マンデート遂行のため相互協力することの重要性を強調されています。特に、文民（国連職員及び現地職員）及び各国軍人はそれぞれ違った能力、視点、経歴等を持っており、一見すると阻害事項のように見えるが、実はこれが UNDOF の強みであり、これを総合一体化することによって何事も可能になる、という強い信念を持たれています。着任されて半年以上が経ち、エカルマ司令官の統率方針や考え方が UNDOF 内に浸透してきており、UNDOF として克服すべき課題はあるものの、UNDOF チーム（ファミリー）はエカルマ司令官の統率の下、非常に良い方向に向かって進んでいます。

3 「信頼」「絆」という財産 - 「言葉」や「価値観」の違いを乗り越えて -

UNDOF 司令部勤務ということは、言うまでもなく上司や同僚の殆どが日本人ではありません。私の30数年の人生の中で、外国人の上司に仕えることは初めてであり、生まれも育ちも違う文民や軍人と共に勤務することは非常に新鮮であるものの、少なからず不安もありました。これに加えて、それぞれが特徴ある英語（各国訛り）によるコミュニケーションとなるため、最初は非常に戸惑うこともありました。また、英語を母国語としない者同士のコミュニケーション、そして、生まれ育った国や環境等の違いから、「言葉」のみならず「価値観(感覚)」の違いという「壁」もあり、派遣当初の頃は、価値観（感覚）の違いに驚愕することも多々ありました。



会議に参加する先任兵站幕僚(中央)

しかしながら、司令官統率方針「**One Mission - One Team - One Goal**」を核心に、各国軍人や文民が、時には衝突し、時には歩み寄りながら、**UNDOF** マンデート（任務）遂行にあたり、その目標を共に達成していくという経験を共有していく中で、今に至っては「言葉」や「価値観」という壁を乗り越え、**UNDOF** チームの一員となることができたと確信しています。また、**UNDOF** 司令部勤務を通じて、日本人感覚が全く通用しないということを感じさせられたことから、まずは、お互いの価値観（感覚）が違うことを前提に、コミュニケーションを図ることの重要性を気付かされました。このため、少なからず衝突することもありましたが、これは「言葉」や「価値観」を乗り越えるために必要な衝突であると感じています。もしそこに様々な違いがあったとしても、同じ目的・目標さえあれば、目的・目標達成のために共に努力できることを身をもって学べたことは、今後の勤務においても参考となる貴重な経験であると思っています。その結果として、**UNDOF** で勤務する仲間と「達成感」を共有し、「信頼」や「絆」が深めることができたことは非常に意義あることだと感じています。

4 おわりに

UNDOFは設立された1974年より約36年間、シリア・イスラエル間の停戦を維持するという成功を一日一日重ね続けています。**UNDOF** 司令官及び **UNTSO**（国連休戦監視機構）司令官が口を揃えて言われることは、「**UNDOF** は、世界に展開する数ある **PKO** の中で最も成功を収めている **PKO** の一つである」ということです。私はこのように数ある **PKO** の中で高い評価を受けている **UNDOF** の前任兵站幕僚として、ゴラン高原の任務に就けたことを非常に幸運に思うとともに、**UNDOF** の一員としてゴラン高原及び中東の平和と安定に寄与できていることを非常に誇りに思っています。そして、**UNDOF** で得た「経験」、**UNDOF** で出会った「仲間」、そして、**UNDOF** の任務を完遂した「自信と誇り」は、今後の職務のみならず、私の人生において貴重な財産になると強く確信しています。

残された任務はわずかですが、遠く離れた日本よりご支援を頂いている皆様方に心より感謝を申しあげるとともに、ゴラン高原に生活する人々の笑顔に少しでも寄与できるよう、引き続き任務に邁進したいと思います。



ゴラン高原でよく見かける羊飼い



笑顔のかわいいシリアの子供たち